



613-000138 Rev.C 060331



最初にお読みください

CentreCOM® AR550Sリリースノート

この度は、CentreCOM AR550Sをお買いあげいただき誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0710-00 Rev.B）とコマンドリファレンス（J613-M0710-03 Rev.B）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初によくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.7.5-03

2 重要：バージョンアップ時の注意事項

本製品を正常にご利用いただくために、最新のブートファームウェアへのアップデートを行ってください。

- 本製品の最新ブートファームウェアは、弊社 Web ページに掲載されています。
- ブートファームウェアのバージョンアップ方法の詳細は、「ブートファームウェア バージョンアップ手順書」（弊社 Web ページに掲載）を参照してください。
- ご使用いただいている本体のブートファームウェアは、SHOW SYSTEM コマンド実行時に表示される「Boot Image」の欄で確認できます。

以前のバージョンから、ソフトウェアバージョン **2.7.5-03** にバージョンアップするときは、以下の点にご注意ください。

- セットアップツールによるバージョンアップ完了後、コンソールからログインして、以下のコマンドを実行してください。

```
set install=pref gui=d550sj18.rsc
```

3 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン **2.7.1** から **2.7.5-03** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM AR550S コマンドリファレンス 2.7」（Rev.B）をご覧ください。

3.1 メモリトリガー

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「トリガー」**

メモリトリガー（CREATE/SET TRIGGER MEMORY コマンド）をサポートしました。

3.2 MSS クランプの動作設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」

PPPoE インターフェース上における MSS クランプ（インターフェースの MTU に応じて、TCP ヘッダー内の Maximum Segment Size オプションの値を書き換える機能）の動作設定が可能になりました。設定は CREATE/SET PPP コマンドに追加された MSSHEADER パラメーターで行います。

3.3 PING、TRACE コマンドの拡張

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

PING コマンド、TRACE コマンドにおいて、DNS に登録されているホスト名（ドメイン名）を指定できるようになりました。

3.4 UDP セッション保持時間の特例設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」

ファイアウォールポリシーの設定において、特定のポート番号を使用する UDP セッションに対して、通常とは異なるセッション保持時間を適用できるようになりました。設定は新しく追加された ADD/SET FIREWALL POLICY UDPPORTTIMEOUT コマンドで行います。

3.5 ICMP の特定パケットの送信設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP の特定のパケットをルーターが送信するかどうかを、設定によって変更することが可能になりました。対象となる ICMP は、Network Unreachable、Host Unreachable、Redirect の 3 種類です。以下のコマンドで変更できます。（デフォルトは ENABLE です。）

```
DISABLE/ENABLE IP ICMPREPLYMSG=[NETunreachable/HOSTunreachable/  
REDirect/ALL]
```

また SHOW IP ICMPREPLYMSG コマンドで設定の状態を確認することができます。

3.6 ISAKMP メッセージ交換モード完了後の情報保持時間設定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPsec」

CREATE/SET ISAKMP POLICY コマンドに DELETEDELAY パラメーターが追加され、完了したメッセージ交換モード（Main、Aggressive、Quick など）の情報保持時間を調整できるようになりました。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.7.1 から 2.7.5-03 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

スイッチポート

- 4.1 SHOW SWITCH COUNTER コマンドの出力（画面表示）フォーマットが乱れていましたが、これを修正しました。

VLAN

- 4.2 CREATE CONFIG コマンドを実行しても、デフォルト VLAN に対する設定変更（SET VLAN PORT コマンド）がファイルに保存されませんでした。これを修正しました。
- 4.3 VLAN ID が 256 以上の VLAN インターフェースに IP アドレスを設定した場合、該当 IP アドレス宛での通信ができませんでしたが、これを修正しました。

ブリッジング

- 4.4 ブリッジのフォーワーディングデータベースに MAC アドレスが重複して登録されていましたが、これを修正しました。

IP

- 4.5 オプション付き IP パケットのフラグメント化処理時にリポートすることがありましたが、これを修正しました。

IP フィルター

- 4.6 IP フィルター関連のログメッセージが不適切でしたが、これを修正しました。

BGP-4

- 4.7 集約経路設定時において、インターフェースのリンクダウンが発生するとリポートしていましたが、これを修正しました。

IPsec・ISAKMP

- 4.8 Main、Aggressive、Quick などのメッセージ交換モードにおいて、最終パケット送信後にそれ以前のパケットの再送を受けるとリポートすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.9 ISAKMP 脆弱性（JPCERT/CC REPORT 2005-11-24）への対策を行いました。

その他

- 4.10 TELNET コマンド（Telnet クライアント）使用時、Telnet データに不正な改行コードを付加していましたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項・注意事項

ソフトウェアバージョン 2.7.5-03 には、以下の制限事項や注意事項があります。

5.1 グラフィカル・ユーザー・インターフェース (Web GUI)

 **参照** 「取扱説明書」 / 「付録」 / 「Web GUI」

- GUI 画面ではマルチバイト文字を入力しないでください。入力してもエラーメッセージは表示されませんのでご注意ください。
- GUI 画面では LAN 側インターフェース (vlan1) の IP アドレスを異なるサブネットの IP アドレスに変更しないでください。変更すると GUI に再接続できなくなることがあります。接続できなくなったときは、ルーターを再起動して変更前の IP アドレスに接続しなおすか、約 10 分待ってから変更後の IP アドレスに接続しなおしてください。
- 「クイックスタート」 → 「WAN」画面の「DNS リレーを使用する」にチェックを付けたときは、DNS サーバーのアドレスも入力してください。アドレスが未入力でもエラーメッセージは表示されませんのでご注意ください。
- 「クイックスタート」 → 「WAN」画面で PPPoE 接続の設定をすると、PPPoE インターフェースのリンク状態監視方式が「LQR」(Link Quality Reporting) になります。この設定では、インターネットサービスプロバイダー (ISP) 側の機器が LQR をサポートしていない場合にリンクダウンを検出できず、PPPoE の自動再接続機能が働かませんので、「設定」 → 「レイヤー 2」 → 「PPP」画面で「リンク状態の監視」方式を「Echo」(LCP Echo) に変更してください。

5.2 フォワーディングデータベース (FDB)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「インターフェース」 / 「スイッチポート」

- LAN 側スイッチの FDB に MAC アドレスが 200 件以上登録されている状態で SHOW SWITCH FDB コマンドを実行すると、一時的に通信が停止することがあります。

5.3 DHCP サーバー

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「DHCP サーバー」

- DHCPNAK メッセージを送信しないことがあります。このため、DHCP クライアントが IP アドレスを取得するときに時間がかかる場合があります。

5.4 QoS

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「QoS」

- 入力ポリシー (INPOLICY) において、メーター (METER) と RED の設定ができません。

- スイッチインスタンス (swi0) の入力ポリシー (INPOLICY) において、仮想帯域 (VIRTBW) が機能しません。
- 統計カウンターにおいて、トンネルポリシー (TUNNELPOLICY) を通過する最初の ESP パケットがカウントされません。

6 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM AR550S コマンドリファレンス 2.7 (J613-M0710-03 Rev.B)」は弊社 Web サイトに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web サイトで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0710-03 Rev.B」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

